[絵画・以降]の時代に構想する絵画教育

―その理論的前提とカリキュラムモデル―

研究プロジェクトの枠組み

永守基樹（和歌山大学）

「ゴッホのタッチでバラを描く」和歌山大学附属小4年生

1．実践的美術教育へ向けて

■経緯

和歌山大学美術教育研究会は、地域の美術教育関係者と和歌山大学教育学部美術科教育学研究室の共同研究の場として組織されています。**2010** 年度より改組して、いくつかの研究プロジェクトを並行して行ってきました。

2011 年度から開始した標記の絵画教育プロジェクトは、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、そして大学という校種の枠を越えた取り組みです。

■実践/研究

中心課題はいうまでもなく絵画教育の現代での再生を探ることです。しかしその過程で、理論と実践と、現場と大学、教師と研究者の関係の構築や、、校種や専門、年代を超えた研究のコミュニケーション形成などが課題として浮上してきました。特に「実践的な美術教育研究」のあり方は、この研究会の当初からの課題でした。この研究会誌を『美術教育実践研究』と名付けた所以です。教員養成大学と地域の美術教育者とのあるべき姿を探ることは、美術教育と美術教育学の双方の基底に関わる課題と言えるでしょう。

■関係する研究プロジェクト

また、この研究プロジェクトには、**3** つの研究プロジェクトが関係しています。絵画教育の題材開発については「平成**23**年度　和歌山大学教育学部・附属公立学校連携プロジェクト」。小中高が連携したカリキュラム開発については「平成 **23** 年度　和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター研究プロジェクト」。そして、ポップアート系の題材開発については「平成**23**年度和歌山県教育委員会・高等教育機関・**JAXA** との連携協定に基づく連携プロジェクト」として和歌山県立美術館との連携しています。ご協力を頂いた各位に、この場で謝意を表します。

2．絵画教育の構想

■研究の目的

「絵画」が様々な芸術を先導して革新と進化、解体を果たしたのは **1970** 年代までだと言われています。ある意味で「絵画の終焉」とも言える時代の中で、絵画教育はどのように変質し、どのような可能性を持つのかを、理論的に、同時に実践的に探求することが本研究プロジェクトの目的です。

その目的達成のために、**(1)** 理論的に絵画と美術教育の関係性を問い直す作業と、**(2)** 実践的に題材開発とカリキュラム開発を試みる作業を並行して行いました。

■美術教育の理論的枠組みへの絵画の寄与

1970 年代に「ミニマル絵画」などでモダニズムの最終形態を見せた絵画は、それ以降の美術教育の理論的枠組みにおいて、以下の二つの寄与が可能だと考えています。

(1) 美術（視覚芸術）の諸方法の原理論として、モダニズム絵画のフォルマリズム（進化論的歴史）的展開での諸概念や方法を示すことができる。

(2) 絵画の諸様式を多様且つ重層的に組織化することで、歴史や社会との関係性のなかで芸術のあり

方やその表現活動を示す軸群を形成する。

4．カリキュラム開発と題材群

■原理と歴史―2 つのカリキュラムモデル

カリキュラム開発は、上の二者に沿って、以下の 2 つの方向から行ってきました。

(1) モダニズム絵画を原理的に再構成する。美術教育の中核はモダニズムが形成すべきだというコンセプト。

(2) 絵画の諸歴史様式新たな視点から選び出し、それらの様式についての題材群をシークェンスとして構成すること。ポストモダンの歴史認識が次代のアートを生むというコンセプト。

■絵画の原理へ―ドローイングとデッサンから

(1) は2つの群に分かれて題材・カリキュラム開発が試みられてきました。

(A)オルタナティブ・ドローイング（小学校中心）

(B) オルタナティブ・デッサン（中高中心）

(B)の題材群は進行が比較的遅いので、本号では先ず「**(A)** オルタナティブ・ドローイング」の題材群を掲載・報告することとした。いずれも身体感覚的な「線体験」から、視覚的で絵画的なドローイング表現へと展開する、オリジナル題材群です。

(2)は、レンブラントと琳派絵画の絵画空間の対照、ポップアートとシュールリアリズムにおけるイメージレトリック、ゴッホとモネとセザンヌの筆触（タッチ）などが実践されてきました。本誌では未だ中間報告のような部分も含みますが、いずれも絵画なるものを体験的に理解させるために、知性と感性を、鑑賞と表現を深く関係づけた題材となっています。それらの題材がいくつかの柔らかな連なりとなっていくこと、すなわちカリキュラムへの視点の形成が最も重要な課題と言えるでしょう。

5．研究内容概要

以上を整理し、図式的に示すと以下のようになります。

■実践／理論　題材／カリキュラム

研究は、理論的、実践的の双方のアプローチを繰り返し行い、個々の題材レベルと、カリキュラムのレベルの双方は、研究会での討議の中で、互いに関連づけられていくことを目指した。

■題材群

(1) [原理**]**的アプローチ

モダニズム絵画を原理的に再構成すること。

(A) 題材・カリキュラム開発「オルタナティブ・ドローイング（小学校中心）

※本誌掲載 **9** 題材

(B) 題材・カリキュラム開発「オルタナティブ・デッサン（中高中心）」

※次号以降に紹介予定

(2) [歴史的**]**アプローチ

絵画の諸歴史様式新たな視点から選び出し、それらの様式についての題材群をシークェンスとして構成すること。

※本誌掲載 **5** 題材

研究会風景（**2012** 年 **1** 月）